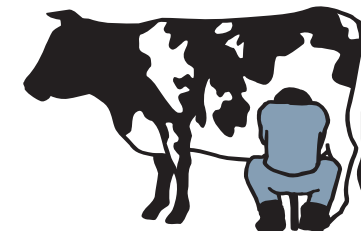


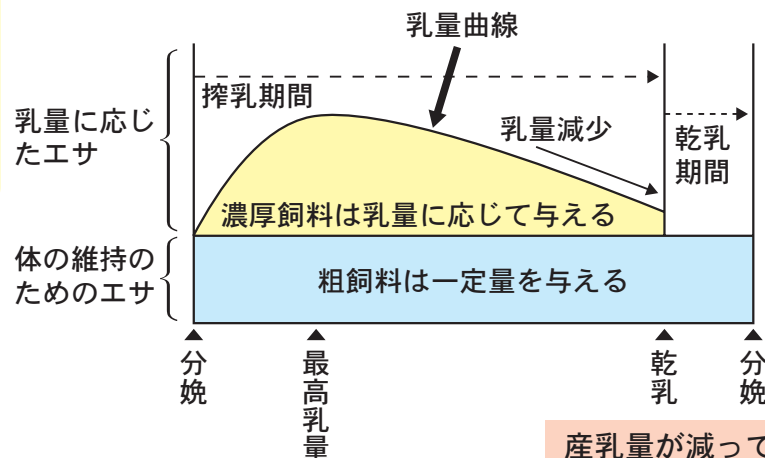
乳用牛への飼料給与



体重600kgで、毎日30kgくらいの牛乳を生産する牛は、1日に粗飼料と濃厚飼料を30kgくらい食べます。

二本立て給与の考え方

乳牛へ給与する飼料の量や質は、右の図のように、基礎的な部分と乳量に応じた部分に分けて計算され、過不足のないようになっています。



酪農家は常に1頭1頭に応じた飼料の内容や給与量を考えながら牛にエサをやっています。



たくさん乳を出す時期に飼料が不足するとやせてしまいます。

産乳量が減ってもたくさんの飼料を給与すると太ってしまいます。

自給飼料とは

牧草類を自分の畑や借りた畑で栽培し、サイレージや乾草といった形で保存し、一年中食べられるようにしたものです。

夏に刈り取りをするものと冬に刈り取りをするものがあります。

家畜飼料用のイネも、サイレージとして利用されています。

自給飼料の保存

収穫した粗飼料は、そのままの形で乾燥させて保存することもできますが、牛が好んで食べるように、ひと工夫したのが、サイレージです。

サイレージは、刈り取った粗飼料を乳酸発酵させたものです。ロール状にした粗飼料を、薄いラップでグルグル巻いて包んだりします。(その他のサイロ形式もあります。)



乳量曲線とは、

分娩の後、普通は280日～360日程度搾乳しますが、どの期間でも同じように乳が出るわけではありません。

このグラフのように「山」があります。また牛によって搾乳できる量はそれぞれに異なります。

乾乳とは、

乳牛は、子牛を産んだ後、約40日～60日で次の分娩のために種付けをします。

乾乳とは、その分娩前の約60日間は搾乳しないことを言います。

飼料の原料となる穀物（トウモロコシ、大麦など）については、肉用牛のパネルを参照して下さい。